蔵王権現立像
平安時代（12世紀）
奈良 大峯山寺

神仏の山

特別展

# 吉野・大峯

よしの おおみね

蔵王権現に
捧げた
祈りと美

日本文化を守り伝える TSUMUGU 紡ぐプロジェクト

本展の収益の一部は、
「紡ぐプロジェクト」における
文化財の修理事業に充てられます。

Press Release

奈良国立博物館
NARA NATIONAL MUSEUM

神々や仙人が住まう、神秘的で謎めいた場所として崇(あが)められてきた吉野(よしの)。

奈良の吉野から和歌山の熊野(くまの)へと至る大峯の険しい山々は、山岳修行はじまりの地とされ、

古来人々は特別な力や悟りを得ようと大自然の中に身を投じてきました。

とくに吉野から大峯の山上ヶ岳は、金を秘める霊山「金峯山」と呼ばれ、

平安時代には藤原道長(ふじわらのみちなが)ら都の貴族や天皇がこぞって参詣しました。

さらに南北朝時代になると後醍醐天皇(ごだいごてんのう)が山内に政治の拠点を置いたように、

各時代を通じて特別な場所でありつづけました。

近年、道長が自ら書写して金峯山に埋納(まいのう)した紺紙金字経(こんしきんじきょう)の断簡(だんかん)が金峯山寺(きんぶせんじ)で大量に発見され、

大きな注目を集めました。1000年以上も前に、道長が金峯山独自の尊格・蔵王権現に

捧げたというこの経巻を本来の姿に復元すべく、目下保存修理が進められています。

本展では、道長自筆の国宝・紺紙金字経を修理後初公開するとともに、

山岳修行の祖・役行者像(えんのぎょうじゃぞう)や蔵王権現像、曼荼羅(まんだら)や鏡像(きょうぞう)、人々が祈りを捧げた神像や仏像など、

自然と神仏への信仰が一体となって生み出されたこの地域ならではの宝物を一堂に展観します。

山が連なる大自然、そこに神と仏が宿り、やがては修験道(しゅげんどう)の聖地、

そして桜の名所ともなった吉野・大峯。

本展はその歴史と魅力を余すところなくご紹介する展覧会です。

かくし平から見た日の出（写真提供：飛鳥園）

# 第1章

# 伝説の地 吉野

## 役行者と蔵王権現に出会う

吉野・大峯に集った人々は、雄大な自然のなかで神仏にまみえることを切に願いました。
本章では修験道の聖地・大峯山寺の秘仏本尊（写真掲載なし）を含む蔵王権現像を
寺外初公開するとともに、山岳修行の祖・役行者をご紹介します。
さらに会場では、VR映像を駆使して金峯山寺蔵王堂の秘仏本尊蔵王権現像を
大型スクリーンに再現し、その圧倒的な迫力を体感していただきます。

※VR映像の詳細は最後のページをご覧ください

大峯山寺より
寺外初公開を含む
蔵王権現像が
一挙降臨！

大峯山寺の
役行者三尊と
うりふたつの
特別な像

蔵王権現立像　5軀
平安～鎌倉時代（12～13世紀）
奈良　大峯山寺

役行者および二鬼像
室町時代（15世紀）
奈良　吉水神社

国宝

紺紙金字阿弥陀経
（金峯山経塚出土）
藤原道長筆
平安時代　寛弘４年（1007）
奈良　金峯山寺

藤原道長直筆の
紺紙金字経
修理後初公開！

道長が未来に託した
祈りのタイムカプセル

国宝

藤原道長経筒
平安時代
寛弘４年（1007）
奈良　金峯神社

# 第２章

# 金峯山をめざして

## 藤原道長の埋経

平安時代になると大峯は、弥勒が出現するまで金を秘める山「金峯山」と呼ばれるようになりました。
時の権力者・藤原道長とそのひ孫・師通は、多くの臣下とともに金峯山に参詣し、
自筆の紺紙金字経を埋納することで弥勒の世まで仏法を伝えたいと願いました。
本章では、近年金峯山寺で発見された道長・師通自筆の紺紙金字経（国宝）全18巻を
修理後初公開し、彼らが山上に託した祈りを紐解いていきます。

藤原道長も
拝した!?
鏡像の傑作

国宝

蔵王権現鏡像
平安時代　長保３年（1001）
東京　西新井大師總持寺

まるで
生きているかのよう
修行者を見つめる
鋭い眼光

重要文化財
蔵王権現立像および厨子
［蔵王権現］鎌倉時代　嘉禄2年（1226）
［厨子］鎌倉時代（13世紀）
奈良　如意輪寺

重要文化財
吉野曼荼羅
南北朝時代（14世紀）
奈良　西大寺

信仰世界の見取り図
吉野の神仏大集合

# 第3章

# ひろがる信仰世界

## 修験者・縁起・曼荼羅

金峯山や熊野への参詣が盛んになるにつれて、吉野と熊野を結ぶ大峯の参詣道が整備され、
聖地の由緒を伝える縁起物語が人々の間に広まっていきました。
山は仏の世界に見立てられ、桜の歌人・西行をはじめ多くの人々が
神仏にまみえたいと大峯に分け入りました。
本章では、吉野に伝わる神像・仏像や、山の神仏を描いた曼荼羅を一堂に集め、
参詣者が山中で感じた豊かで濃密な神仏の世界をご覧いただきます。

# 第4章

# 後醍醐天皇 吉野へ

## 山上の新政権

吉野に南朝を開いた後醍醐天皇は、蔵王権現に国家の安泰を願って祈りを捧げながら、この地で晩年を過ごしました。本章では、後醍醐天皇陵を守る如意輪寺の秘仏本尊如意輪観音像を寺外初公開するとともに、南北朝時代の吉野を象徴する金峯山寺仁王門および巨大な金剛力士像の造立について紹介し、新政権を擁した吉野の信仰に光をあてます。

崩御後
三十五日目に
開眼供養された
特別な肖像画

重要文化財
後醍醐天皇像
南北朝時代(14世紀)
神奈川 清浄光寺(遊行寺)

後醍醐天皇も
祈りを捧げた
秘仏本尊

如意輪観音坐像
鎌倉時代
延慶3年(1310)
奈良 如意輪寺

重要文化財

吉野花見図屏風 左隻
桃山時代（16世紀） 京都 細見美術館

# 第5章

# 豊臣秀吉 華の宴

## 神木の桜花に詠う

蔵王権現の神木と伝えられる桜は吉野にとって特別な存在ですが、
天下統一を成し遂げた豊臣秀吉は文禄3年（1594）に
徳川家康や伊達政宗をしたがえて吉野を舞台に盛大な花見を行いました。
本章では、現代の花見にもつながる華やかな宴を彷彿とさせる品々をご覧いただくとともに、
豊臣秀長や秀頼による堂塔の再興についてもご紹介いたします。

天下人・秀吉の
絢爛な
花見を描く

奈良の町の山上講の本尊

理源大師倚像
江戸時代（17世紀）
奈良　餅飯殿町財団

# 第6章
# 近世・近代の吉野と奈良

近世には、民衆も大峯に参詣して
日々の暮らしの安寧を祈りました。
本章では奈良の餅飯殿町に伝わる山上講の資料などを通じて、
奈良の町と吉野との深い関わりをご紹介します。
さらに吉野では、明治時代の廃仏毀釈を乗り越えた
数多くの仏像が大正時代まで守られていました。
それらの保護に心を砕いた人々の想いも交えながら、
かつて吉野に伝わったゆかりの仏像をご覧いただきます。

## ロサンゼルスから里帰り!!
## 桜との深い縁を象徴する蔵王権現像!!

西行が吉野の桜を愛でて和歌にしたように、
平安時代後期に吉野は
桜の名所として知られていました。
では、桜が蔵王権現信仰と
結びついたのはいつのことなのでしょう。
その謎を解き明かす鍵となる
蔵王権現像です。

額上に桜をかたどった冠飾りをつける

蔵王権現立像
鎌倉時代（13世紀）
アメリカ
ロサンゼルス・カウンティ美術館（LACMA）

# 吉野周辺地図

吉野町
奈良県
大和上市駅
吉野川
吉野神宮駅
近鉄吉野線
丹治川
左曽川
吉野駅
千本口
吉野山ロープウェイ
吉野山
宮滝遺跡
吉水神社
金峯山寺
東南院
勝手神社
大日寺
喜蔵院
如意輪寺
竹林院
櫻本坊
吉野水分神社
金峯神社
西行庵

# 用語解説

## 修験道（しゅげんどう）

人間だれもが持っている自然に対する畏敬の念に、仏教、道教、陰陽道などが融合して成立した日本独自の宗教。修験の修は苦修練行、験は霊験を得ることを意味し、苦しい修行を乗り越えることによって霊験を得て、衆生を救済し悟りへと導く道といわれる。修験道の修行者は「修験者」あるいは「山伏」と呼ばれる。吉野・大峯は修験道の根本道場とされている。

## 役行者（えんのぎょうじゃ）

奈良時代の基本史料である『続日本紀』に記載され、修験道の開祖と仰がれる人物。大和国（奈良）の葛城山に住んで修行をはじめ、全国の霊山を遊行して霊験を得たといい、鬼神を使役して橋を架けさせ、富士山頂まで空を飛んだなどの伝説も生まれた。役行者が大峯で蔵王権現を感得し、その姿をヤマザクラの木に刻んで山上山下にまつったのが大峯山寺と金峯山寺の始まりとされる。

## 蔵王権現（ざおうごんげん）

役行者が大峯にこもって祈願した際に岩中から湧出したと伝わる修験独自の尊像。金峯山寺および大峯山寺の本尊としてまつられる。権現とは仏が変じて現れた仮（権）の姿を意味し、衆生を導く本尊を求めた役行者の祈りにこたえて釈迦如来、千手観音、弥勒菩薩の三尊が姿を変え、青黒身の忿怒相で現れたとされる。

## 吉野・大峯（よしの・おおみね）

紀伊山地に含まれる、吉野山から山上ヶ岳の一帯を中心とした地域。古代から聖域として知られ、さまざまな修行者が集い、修験道発祥の地となった。「吉野・大峯」「熊野三山」「高野山」の三つの霊場およびそれらを結ぶ参詣道や、自然と人々の営みが作り出した風景が一体となった文化的景観が世界的に高く評価され、平成16年（2004）に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録された。

# 金峯山寺の秘仏本尊・蔵王権現像のVR映像を大型スクリーンで紹介!!

VR映像『金峯山寺』より　製作協力：総本山金峯山寺　製作著作：TOPPAN

金峯山寺の本堂である蔵王堂（国宝）には、本尊の蔵王権現像3軀（重要文化財）がまつられています。像高7メートルに及ぶ日本最大の秘仏で、躍動感ある青黒い体と、悪を粉砕する忿怒の形相が強い印象を与えます。金峯山寺とTOPPANが約4年の歳月をかけて実施した三次元形状計測や超高精細デジタル撮影等で得たデータをもとに、蔵王堂と蔵王権現像の姿を目の前にあるかのように体感できるVR（バーチャルリアリティ）映像で再現しました。本展では展示室内に幅約18メートル、高さ約4.5メートルの大型スクリーンを設け、VR映像の一部を使って蔵王権現像を実物に近いサイズで投影します。迫力ある映像空間で、蔵王権現像の魅力をご堪能ください。

※画像はイメージです。

# 金峯山寺仁王門安置の金剛力士像を仏像館で特別公開中!!

※本展の観覧券でご覧になれます

像内の銘文により延元3年（1338）から翌年にかけて、南都大仏師康成により造られたことがわかります。見上げるばかりの巨像で、劇的な忿怒相と全身にみなぎる力動感は圧巻です。建仁3年（1203）に運慶・快慶らが制作した奈良・東大寺南大門像に次ぐ大作として、また当代を代表する金剛力士像としてもきわめて高い価値を有しています。

金剛力士立像　南北朝時代 延元4年（1339）
奈良・金峯山寺

---

## 2026 4/10（金）〜 6/7（日）

［前期］4/10（金）〜 5/10（日）　［後期］5/12（火）〜 6/7（日）

※会期中、一部の作品は展示替えを行います　※展示作品、会期等については、今後の諸事情により変更する場合があります

**休館日**　毎週月曜日 ※ただし4月27日（月）、5月4日（月・祝）は開館

**開館時間**　午前9時30分〜午後5時 ※入館は閉館の30分前まで

主催：奈良国立博物館、総本山金峯山寺、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿　特別協力：大峯山寺、文化庁
企画協力：TOPPAN　特別支援：DMG森精機　協力：仏教美術協会

| 観覧料金（税込） | 一般 | 高大生 | 中学生以下 |
|---|---|---|---|
| 当日 | 2,000円 | 1,500円 | 無料 |
| 前売・団体 | 1,800円 | 1,300円 | |

※前売券の販売開始時期は未定です。

※団体は20名以上。※障害者手帳またはミライロID（スマートフォン向け障害者手帳アプリ）をお持ちの方（介護者1名を含む）、奈良博メンバーシップカード会員の方（1回目及び2回目の観覧）、賛助会会員（奈良博、東博［シルバー会員を除く］、九博）、清風会会員、特別支援者は無料。※本展の観覧券で、名品展（仏像館・青銅器館）もご覧になれます。※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ会員（学生）の方は400円、同（教職員）の方は1,900円で当日券をお求めいただけます。観覧券売場にて学生証または職員証をご提示ください。

［プレスお問い合わせ］
「神仏の山 吉野・大峯 ―蔵王権現に捧げた祈りと美―」
広報事務局（TMオフィス内）
担当：馬場、永井、西坂
TEL：050−1807−2919　FAX：050−1722−9032
E-mail：yoshino_omine2026@tm-office.co.jp
〒541−0046 大阪市中央区平野町4−7−7 平野町イシカワビル

〈公式HP〉
https://tsumugu.yomiuri.co.jp/yoshino_omine2026/ ►

〈公式X〉
@yoshino_omine

奈良国立博物館
NARA NATIONAL MUSEUM
〒630−8213 奈良市登大路町50番地
ハローダイヤル 050−5542−8600　https://www.narahaku.go.jp/
［交通案内］近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から市内循環バス（外回り）「氷室神社・国立博物館」下車すぐ